TANAKA

白金、Platinum
触媒から抗がん剤まで、可能性を十分に秘めた期待の星。

金、Gold
装飾用はもちろん、携帯電話やスマホの中で極細線となって電気をつなぐ大切な役目を果たすマルチタレント。

銀、Silver
銀なくして写真は生まれなかった。鏡にも使われる身近な存在。

パラジウム、Palladium
水素を大量に取り込める性質で高純度水素製造装置として威力を発揮。

ロジウム、Rhodium
塊の状態であれば、どんなものにも溶けない。非常に硬く、表面を硬くするためにめっきに使われる。

イリジウム、Iridium
硬さ、耐食性に優れ、自動車用スパークプラグや、高温に耐えるためLED用サファイヤ基板製造用のるつぼにもに使用されている。

ルテニウム、Ruthenium
水から水素を発生させる光触媒として活躍。 ハードディスクの記録容量の増加に貢献。

オスミウム、Osmium
バイオテクノロジーや科学捜査に役立っている。

ミックス 責任ある木質資源を使用したパッケージ FSC® C012257
適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙を使用しています。

森の町内会 間伐に寄与する紙 www.mori-cho.org
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

木づかいニッポン A-(2)-060002
国産材の利用を促進する「木づかい運動」を応援しています。

VEGETABLE OIL INK
この印刷物は植物油インキを使用しています。

Waterless Printing Naturally
有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

CSR報告書 2018

TANAKA
田中貴金属グループ

企業理念と行動指針

企業理念

TANAKAグループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待にスピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。

行動指針
Code of Conduct

1. あいさつ	Greet Everyone
1. えがお	Show your Smile
1. かんしゃ	Give Thanks
1. あんぜん	Maintain Safety
1. ちょうせん	Challenge Yourself

LBMA GOOD DELIVERY REFEREE

LPM LONDON PLATINUM & PALLADIUM MARKET

田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金及び銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界で5社のみ(国内では田中貴金属工業(株)のみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

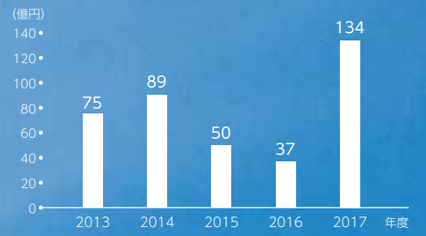
田中貴金属グループ概要

■業績要約

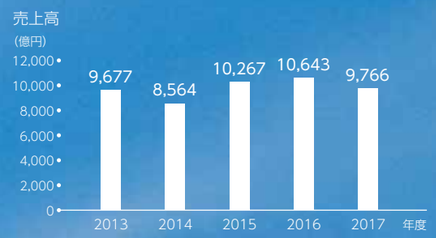
百万円

	2016年度	2017年度	前年度比
売上高	1,064,259	976,613	91.8%
税引前利益	6,128	18,039	294.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,690	13,391	362.9%
総資産	581,304	566,196	97.4%
自己資本比率	33.4%	37.0%	—

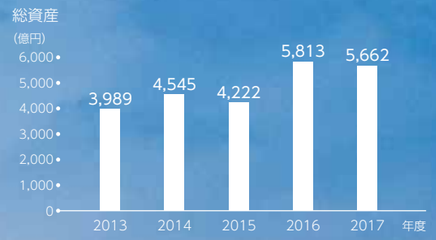
親会社株主に帰属する当期純利益



売上高



総資産



CONTENTS

00 はじめに 田中貴金属グループについて
02 トップメッセージ

TANAKAが創出する価値

04 TANAKAの事業と提供価値
06 水素社会を切り拓く
08 貴金属の有効利用 幅広い価値を生み出す研究開発

お客様にも、環境にも、社会にも

10 TANAKAの品質
12 地球環境を守る
14 地域・社会への貢献

誠実で自由闊達な企業風土

16 より安全な職場環境づくり
18 一人ひとりの活躍
20 コンプライアンス、リスクマネジメント コーポレート・ガバナンス
22 CSRパフォーマンス 第三者保証
24 第三者所感 ISO26000・SDGs対照表

編集方針　CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会と美しい地球の未来の実現に向けて田中貴金属グループが進めているCSR(企業の社会的責任)活動を報告するとともに、今後の取り組みのレベルアップに向けてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図ることを目的に発行しています。
本年版よりデザインコンセプトを「泉」とし、"汲めども尽きぬ泉"のように田中貴金属グループから新たな価値が生まれ社会に貢献している様子を象徴的に表現しています。
皆様のお声を田中貴金属グループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

対象期間　2017年4月1日～2018年3月31日
但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

対象範囲　TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。ただし、メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社を除きます。なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

発行時期　2018年7月

参考ガイドライン　(一財)日本規格協会「ISO26000:2010」

ウェブサイト　本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、下記のウェブサイトをご利用ください。
http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html

発行責任部署　TANAKAホールディングス株式会社
CSR・広報本部　CSR推進部
〒100-6422　東京都千代田区丸の内2-7-3　東京ビルディング22階
TEL 03-6311-5506(直)　FAX 03-6311-5508
ホームページ http://www.tanaka.co.jp/about/csr

トップメッセージ

2020年、そしてその先の サステナビリティに向け、 グローバルにCSRを推進する

コンプライアンス、ガバナンス、サイバーセキュリティ、災害、安全、環境・・・。
多様なリスクをマネジメントし、「あるべき姿」への道筋をつけていきます。

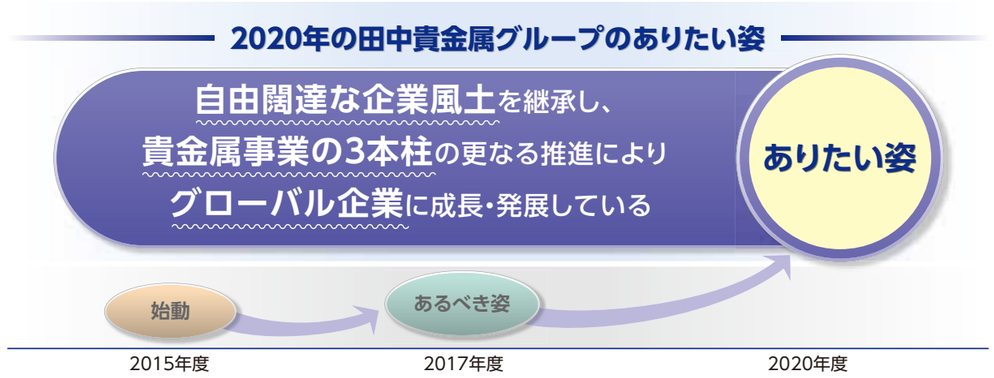
目まぐるしい事業環境変化を広く深く捉え、先見性を持ってリスクに対処する

2017年度は、「リスク」というものを多元的に解析し、企業として法令遵守を果たすコンプライアンス、並びに企業統治であるガバナンスを、会社の骨格として常に整備強化し続けていかねばならないと、改めて強く認識させられた年でありました。誰もが知る超一流企業の財務・品質に関わる不正事案、IT化がこれだけ進んだからこそ生じたサイバーセキュリティ・個人情報保護に伴う問題、そしてかつてない程の速度で目まぐるしく変化する世界の地政学情勢といった事業環境においては、リスクマネジメントに対して広く深く理解・追従し、先見性をもって事業活動を継続していくことが、強く求められていると考えております。

その2017年度は、田中貴金属グループの6年間の中期経営計画である「GOGO計画2020」ファーストステージの3年目にあたり、年度末には折り返し地点を迎えました。この前半3年間で目指す目標を「あるべき姿」とし、貴金属事業の3本柱、即ち産業用・資産用・宝飾用の各事業の業績目標を着実に達成していくこと、そのためにグループ内のコミュニケーション・連携を強めることで事業基盤を確立すべく、活動してまいりました。

この3年間で、2015年度に社内カンパニー制への組織改編、2016年度に当グループ同様100年以上の歴

GOGO計画2020



史を持つスイスの同業社・Metalor Technologies Internationalの発行済株式100%の取得、2017年度には設立以来長らく海外パートナーとの合弁会社であった日本エレクトロプレイティング・エンジニヤース株式会社(EEJA)と台湾田中貴金属工業股份有限公司の2社を田中貴金属工業株式会社の100%子会社とする等、これまでにない速度で事業基盤の強化・拡張を図ってまいりました。

それらの事業展開に先んずる形で、当グループ全体のリスク管理を司るべく、「リスクマネジメント委員会」を2015年度に設立し、様々なリスクを抽出、その対応を進めてまいりました。現在においては、自然災害・労働災害・健康障害・環境問題・個人情報漏洩・秘密情報漏洩・紛争鉱物関連・金融派生商品関連と、対応範疇を明確に細分化した上でリスク評価を行い、優先順位を決め対応策を実行しております。

中でも安全に関して、モノ造り企業として「安全操業」を徹底すべく、全生産現場での安全総点検を実施いたしました。非定常作業の手順の見直し及び、挟まれ・巻き込まれリスクを低減するための改善を実施、また実施状況の確認も行いました。改善作業を全社員一丸となって進めた結果、改善が確実に進められたことは勿論ですが、安全意識の向上も図られ、2017年度の生産現場での災害発生件数は過去最低に抑えることができました。

また、金融派生商品関連リスクを適切にモニタリングし対処するため、「デリバティブ取引委員会」を2017年度に設置しております。さらに、金融機関を起点に広く認知されている“KYC(Know Your Customer)”に基づき、いわゆる紛争鉱物関連、反社会的勢力との取引排除や、拡げて近年グローバルな要請が進みつつあるCSR調達対応(RBA(旧EICC)・LBMA等)も包含した機能を持った組織として、「取引審査部」を2018年4月に新設しました。

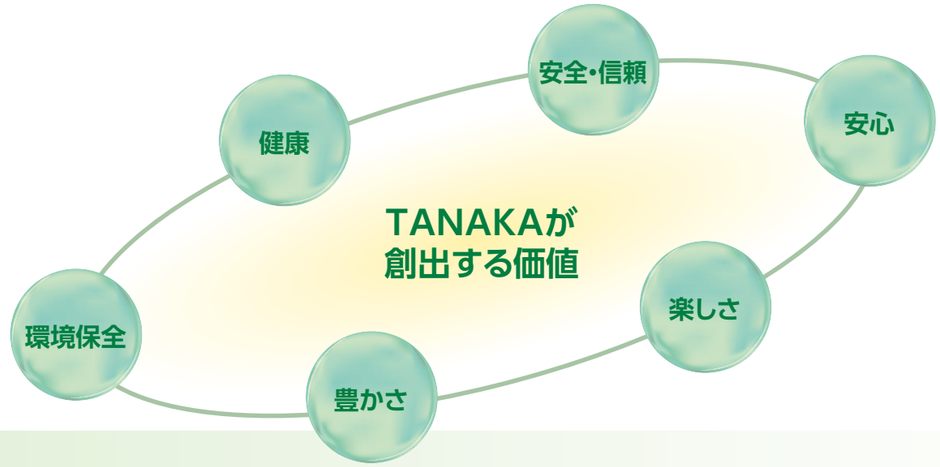
様々な施策は、事業活動を安定的に継続(企業のサステナビリティ)し、CSR(企業の社会的責任)を果たすために欠かすことのできないものであり、今後もリスクマネジメント委員会を中心にリスク対応を確実に実施してまいります。

2018年度より始まる「GOGO計画2020」セカンドステージ3年間においては、田中貴金属グループの「ありたい姿」を目指し、グローバル企業へ成長・発展させていきたいと考えています。その展開を加速しながら、世界中のお客様、サプライヤー様、協力会社様をはじめとする、すべてのステークホルダーの皆様にご納得いただくべく、よりCSR活動を推進発展させてまいります。本誌をご一読いただいた皆様には、今後、よりグローバルにCSR活動を推進する田中貴金属グループにご期待いただけましたら望外であります。またそのご期待に応えるべく、邁進する所存です。

TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役社長執行役員
田苗 明

TANAKAの事業と提供価値

TANAKAは、創業から130年以上にわたり、
貴金属による特別な価値を世界へ届け続けてきました。
これからも、貴金属にできるすべてのことに取り組み、新しい領域を切り拓いていきます。



TANAKAが創出する価値

産業用 Industrial Products

半導体・電子部品から医療、食品まで、非常に幅広い事業分野のお客様へ、
その課題を解決する製品をお届けしています。
“縁の下の力持ち”として、貴金属材料の供給を通じて産業全般を、
そして社会の根幹を支えています。

AuAgカンパニー

金、銀、合金メタル系素材を提供（電気接点、ターゲット材料、接合材料、等）

化学回収カンパニー

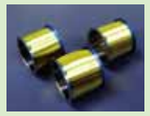
世界トップクラスの貴金属回収精製技術により、ペースト、触媒、化合物を提供

PGMカンパニー

白金族系素材を提供（硝子溶解用白金装置、ハードディスク用ターゲット、センサー・医療用極細線、等）

半導体カンパニー

半導体デバイス向け材料を供給（ボンディングワイヤ、めっき液・装置）



新事業カンパニー

社会に貢献する新規貴金属製品の創出及び事業化

※上記は、田中貴金属工業（株）が6つの事業分野について設けている社内カンパニーです。他のグループ会社とも連携しています。

資産用 Asset

プラチナ・金・銀を確かな価値のある資産として手軽に活用する選択肢を提供しています。

地金

コイン

TANAKAの 純金積立

TANAKAの プラチナ積立

積立サービス

宝飾用 Jewelry

人生の様々なシーンを輝かせる宝飾品を、
長く愛するにふさわしい確かな品質で
お届けしています。

ジュエリー

ブライダルジュエリー

工芸品

国内拠点

TANAKAホールディングス株式会社（THD）
- 本社（東京）

田中貴金属工業株式会社（TKK）
- 本社（東京）
- 岩手工場
- 富岡工場
- 市川工場
- 袖ケ浦工場
- 伊勢原工場
- 平塚工場
- 湘南工場
- 平塚テクニカルセンター
- 筑波事業所（テクニカルセンター）
- 伊勢原テクニカルセンター
- FC触媒開発センター
- TANAKA物流センター
- 名古屋支店
- 大阪支店
- 福岡支店
- 京都営業所

田中電子工業株式会社（TD）
- 佐賀本社工場
- 東京事務所
- 湘南分工場

日本エレクトロプレイティング・エンジニヤース株式会社（EEJA）
- 本社（東京）
- 平塚事業所

田中貴金属ジュエリー株式会社（TKJ）
- 銀座本店
- 新宿店
- ホテル椿山荘東京店
- 伊勢丹立川店
- 横浜元町店
- 仙台店
- 新潟三越店
- 名古屋店
- 名古屋三越 栄店
- 心斎橋店
- 高松三越店
- 福岡 西鉄グランドホテル店

株式会社日本ピージーエム（PGM）
- 本社（東京）
- 小坂工場

海外拠点

田中貴金属工業株式会社（TKK）
- 台湾田中貴金属工業股份有限公司
- 田中先端有色金属材料（寧波）有限公司
- 田中先端有色金属材料（成都）有限公司
- ソウル支店
- 香港支店
- 台北支店
- 高雄営業所
- 田中貴金属（上海）有限公司
- 田中貴金属（上海）有限公司 深圳支店
- 田中貴金属（シンガポール）株式会社
- 田中貴金属（シンガポール）株式会社 マニラ支店
- 田中貴金属インターナショナル（タイランド）株式会社
- 田中貴金属インターナショナル（アメリカ）株式会社
- 田中貴金属インターナショナル（アメリカ）株式会社 サンノゼ支店
- TANAKA America, Inc.
- 田中貴金属インターナショナル（欧州）有限会社

田中電子工業株式会社（TD）
- 田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd.（TES）
- 田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd.（TEM）
- 田中電子（杭州）有限公司（TEC）
- 台湾田中電子股份有限公司（TET）
- 台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター（TET/TC）

日本エレクトロプレイティング・エンジニヤース株式会社（EEJA）
- EEJA（Shanghai）Co.,Ltd.

喜星金属株式会社（HEESUNG）

株式会社日本ピージーエム（PGM）
- NIPPON PGM AMERICA, Inc.
- NIPPON PGM EUROPE S.R.O.

成都光明派特貴金属有限公司（GMPT）

メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社

2018年5月末現在

水素社会を切り拓く

次世代のエネルギーとして、水素エネルギーへの注目が高まっています。
田中貴金属グループは、貴金属事業を通じて水素社会の実現に貢献していきます。

気候変動の緩和と水素利用への期待

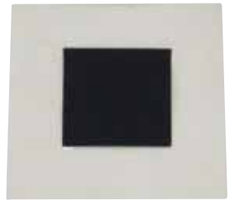
2016年に発効したパリ協定を軸に、温室効果ガス排出削減の取り組みが進められる中、脱化石燃料への転換における中核技術とされるのが水素利用です。水素は利用時にCO_2を排出せず、さらに太陽光、風力、バイオマス等の再生可能エネルギーを使用して製造することで、究極のクリーンエネルギー源となります。自動車や家庭をはじめ、多様な用途での水素の利用が国内外で進められています。

田中貴金属工業(株)では、長年培った貴金属の技術を生かし、燃料電池や水電解に用いる電極触媒及び電解膜をはじめ、水素精製に用いる改質触媒、パラジウム合金水素透過膜等、水素の製造・利用に欠かせない製品の開発・製造を進めてきました。これらを市場に供給することで、水素社会の実現に向け積極的に取り組んでいます。

水電解用電極触媒の開発

再生可能エネルギーの導入拡大とともに、余剰電力を長期間蓄える大規模電力貯蔵技術の重要性が高まっています。余剰電力で水を電気分解(水電解)して水素を製造・貯蔵し、必要な時に水素から発電、あるいは水素を燃料として利用する「Power to Gas」は、大規模電力貯蔵技術の中で最も有力視される技術の一つです。

田中貴金属工業(株)では、「Power to Gas」の重要な技術である固体高分子型水電解に使用される電極触媒を開発製造しており、2018年に評価用の触媒付き電解質膜「CCM(Catalyst Coated Membrane)」のサンプル提供を開始しました。装置やインフラ設備メーカーの要求に合わせたCCMを提供することにより、技術開発期間の短縮や、さらなる高効率の装置開発に寄与します。


研究開発向け評価用 CCM

燃料電池の可能性とFC触媒開発センター

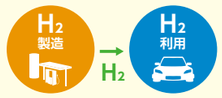
田中貴金属工業(株)は30年以上前から燃料電池の可能性に着目し、その電極触媒の開発に取り組んできました。中でも注力しているのが、小型・軽量かつ高出力という特性を持つ、固体高分子型燃料電池(PEFC)用触媒です。PEFCは燃料電池自動車や家庭用燃料電池「エネファーム」に用いられており、2017年にエネファームの累積普及台数が20万台を突破する等、普及が拡大しています。

PEFCは正負二つの電極とそれを隔てる固体高分子膜で構成されています。負極で水素(H_2)が水素イオン(H^+)と電子(e^-)に分解され、電子が外部回路を伝って正極に移動することで電流が生じる仕組みです。なお、水素イオンは固体高分子膜を通過して正極へ到達し、そこで電子、酸素(O_2)と反応して水(H_2O)が生じます。

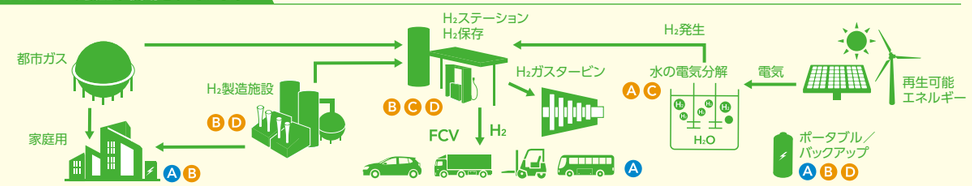
2013年にはPEFC用触媒の研究開発、製造拠点として神奈川県にFC触媒開発センターを設け、安定供給体制を整えていましたが、燃料電池バスの普及等の背景を鑑みて、需要増に対応すべく、現在FC触媒開発センターに新棟を建設しています。

PEFC用電極触媒

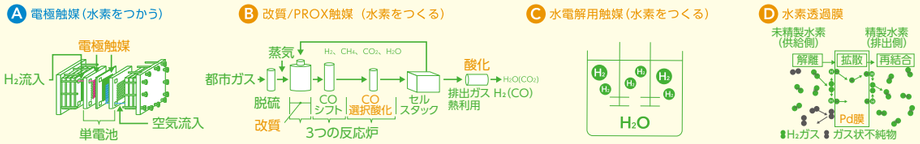
TANAKAが提供する燃料電池ソリューション



TANAKAの製品が使用されています



TANAKAの技術が利用されています



貴金属の有効利用

産出量が限られている貴金属を使って工業製品を製造・供給する田中貴金属グループは、
資源を再生利用して市場や社会に循環させる責務を果たしています。

貴金属はすべて循環させる

当グループが取り扱う貴金属地金は、大きく分けると以下の2種類に分類することができます。

①お取引先様から仕入れる貴金属地金
②使用済み製品（廃棄物）からの回収・精製

貴金属は産出量が限られた貴重な資源であり世界中で再生利用されていることから、当グループが原材料として外部調達する①をリユース品、自社内で回収・精製する②をリサイクル品とみなすことができます。これらを産業用製品、資産用製品、宝飾用製品として製造・販売しますが、貴金属地金を廃棄物として最終処分することはなく、仕入れた貴金属地金はすべて循環させ市場に提供しています。

地金はお金

当グループでは、「地金はお金」を合言葉に、徹底した貴金属地金の管理を行っています。生産設備内はもとより、作業服やウエス等に付着した極微量の地金も、労を惜しまず丁寧に回収し、有効利用を徹底しています。

サーキュラーエコノミーの実現に向けて

近年、EUを中心としてサーキュラーエコノミー(CE)に取り組む企業が増えています。CEとは循環型社会の実現と経済活動を両立させる概念であり、廃棄物や事業活動のムダから富を生み出すことが求められています。

一方、当グループでは原材料としての貴金属地金をすべて再生資源でまかなっており、埋め立て最終処分も行わないことから、すでに貴金属の「クローズドループリサイクル」を実現しています。今後も、貴金属の有効利用を通してCEの実現に貢献します。

●貴金属循環のイメージ

田中貴金属の貴金属ジュエリー買取

RE:TANAKA
[リ・タナカ]

貴金属リサイクルシステム[リ・タナカ]

「安心と信頼」をキーワードに開始した、田中貴金属の貴金属ジュエリーのリサイクルシステムです。地金価格に基づいた全国一律の適正な買取価格、専用の検査機器を使って鑑定し、買取ります。また、買取ったジュエリーは精製過程を経て、工業製品等に再活用されます。

幅広い価値を生み出す研究開発

貴金属技術の医療分野への活用

当グループでは、金ナノ粒子に関する様々な技術をベースに、多岐にわたる簡易検査キットの開発・製造を行っています。

金ナノ粒子に直接的に関わる技術として、表面形状を変える、粒径をコントロールする、表面を化学的に修飾する等の技術を、また、間接的に関わる技術として、タンパク質や核酸、糖等を金ナノ粒子表面に固定する、金ナノ粒子に非特異的に吸着する有機物を抑える等の技術を有しています。

加えて、簡易検査薬に適した抗体をスクリーニングする技術、金ナノ粒子や簡易検査薬の製造技術等も有しています。

これらの技術を基にして、呼吸器疾患、皮膚疾患、蚊媒介感染、母子感染等の感染症の簡易検査薬、高齢化社会を迎え今後増加するであろう生活習慣病のチェックや在宅医療に使用される簡易検査薬、さらには、食品中の成分や水中の有害物質を検出する簡易検査薬等、操作が簡便、短時間で判定、かつ低コストで検査できる様々な検査薬を開発しています。

知的財産権の創出と保護

特許権、実用新案権、商標権、意匠権、著作権等の知的財産権及びノウハウは企業の重要な財産であるとの認識のもとに、積極的に知的財産権の創出に努めています。

新技術の研究、製品・商品の開発、生産及び販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、故意に侵害しないことはもちろんのこと、他社からの侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。

2017年度 取得した特許から

特許第06229084号 ……	チタン部材及びチタン部材の製造方法、並びに電解セル用部材
特許第06232496号 ……	電子部品の気密封止用クラッド材及びその製造方法
特許第06147382号 ……	塞栓用コイル及び塞栓用コイルの製造方法
特許第06313764号 ……	固体高分子形燃料電池用の触媒及びその製造方法
特許第06143818号 ……	マイコプラズマ・ニューモニエ検出用免疫クロマト分析装置
特許第06198343号 ……	ノンシアン系電解金めっき液
特許第06266914号 ……	蛍光X線分析装置を用いた貴金属製品の分析方法、及び、貴金属製品分析用のコンピュータプログラム
特許第06276501号 ……	白色発光ダイオード用ボンディングワイヤ
特許第06309842号 ……	光硬化型導電性インク組成物
特許第06189740号 ……	銀粒子の製造方法

※一部抜粋

TANAKAの品質

「良い物」をお客様にお届けすることが、田中貴金属グループの信条です。
製品自体の品質はもちろん、製品をつくる過程で人権、環境、
安全・衛生、倫理等にも配慮しています。

QMSによる品質管理活動

お客様に満足いただける安心で安全な製品を継続的に提供するため、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステム(QMS)を構築・運用しています。また、お客様の刻々と変わる要求品質に迅速に対応し、お客様の信頼と期待に応えていくため、QMSの有効性をレビューしシステムを改善しています。加えて、高度な品質管理体制が求められる、自動車業界向け品質マネジメントシステムIATF16949の要求事項を反映させたQMSの継続的改善に取り組んでいます。

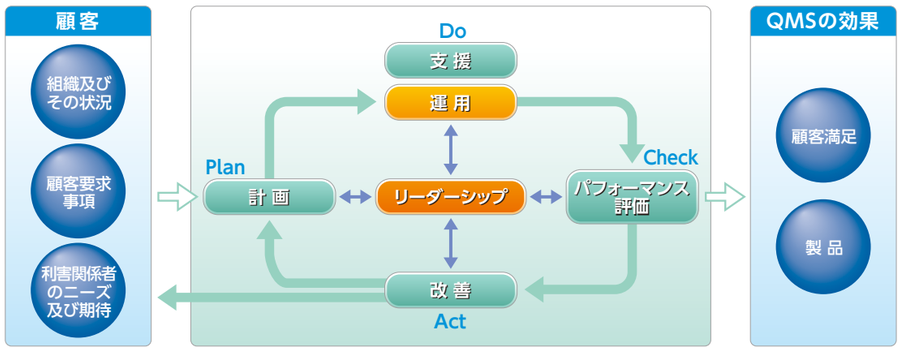
公認審査会社(グッド・デリバリー・レフリー)

田中貴金属工業(株)は、世界で流通する貴金属の品質を保証するために、公認溶解業者を審査する公認審査会社です。LBMA(ロンドン地金市場協会)より金・銀の公認審査会社に、LPPM(ロンドン・プラチナ・パラジウム市場協会)よりプラチナ・パラジウムの公認審査会社に任命されています。

LBMA GOOD DELIVERY REFEREE

LPM LONDON PLATINUM & PALLADIUM MARKET

●品質マネジメントシステムの体系図



顧客からの評価

お客様の生産活動を支える田中貴金属グループの取り組みは、様々なお客様から表彰等の形で評価をいただいています。これを励みとして、今後もさらに取り組みを進めていきます。

2017年度 お客様からの主な表彰

カンパニー	お客様名	受賞名	表彰を受けた理由
AuAg	函館エヌ・デー・ケー株式会社	最優秀サプライヤーズ賞	総合的な評価(6年連続受賞)
AuAg	ON Semiconductor	FE Perfect Quality Award	優れた品質
AuAg	OMRON MALAYSIA	優秀サプライヤー賞	納期遵守率100%
AuAg	株式会社生方製作所	優秀サプライヤー表彰(銅賞)	納期遵守率100%、不良ゼロ
化学回収	日本特殊陶業株式会社	【材料関連部門】最優秀賞	総合評価な評価 (マネジメント、技術力、品質、コスト貢献、納期)
PGM	日本電気硝子株式会社	優秀提案パートナー賞	ガラス繊維生産効率向上に貢献
PGM	Seagate	Supplier award	安定した品質
PGM	富士電機株式会社	2017年度パートナー	安定した品質(4年連続受賞)
半導体	株式会社ジェイデバイス	優秀賞	総合的な評価
半導体	ASE Group	ベストサプライヤー賞	銅系ワイヤーのQCDに対する最高評価(2年連続受賞)

お客様に満足いただけるCSR評価の実現

○ CSR評価への対応

田中貴金属グループでは、人権、環境、安全・衛生、倫理等を含めたCSRに配慮した事業活動を行っており、グローバルなお客様企業からの要望や社会からの期待に応えるため、「RBA行動規範※1」の趣旨に沿った「田中貴金属グループ行動憲章・行動規範」を遵守しています。2017年度は、RBA認定第三者機関による工場監査や自己監査を行い是正措置を実施しました。また、お取引先様約200社に対して「RBA行動規範」遵守をお願いするとともに、遵守状況の調査とフィードバックを継続して実施しています。

サプライチェーンCSR評価機関EcoVadis※2による、環境、労働・安全衛生、倫理、サプライチェーン評価では、2017年9月にシルバー認証を取得しました。

EcoVadis認証書

※1 RBA行動規範: RBA(Responsible Business Alliance責任ある企業同盟)が制定した行動規範
※2 EcoVadis : 世界110か国150業種30,000団体以上が登録しているCSR評価プラットフォーム。ゴールド、シルバー、ブロンズ、評価なしの4段階に評価される。

○責任ある鉱物調達への取り組み

田中貴金属工業(株)は、原材料調達における紛争鉱物(金、タンタル、タングステン、すず)に係る取引上のリスク管理を行い、人権侵害、テロ、マネーロンダリング、不正取引、非人道的行為や武装勢力に関与する調達を回避するため、「責任ある鉱物管理方針」を制定し、紛争フリーによる原材料調達を推進しています。金に係る取引については、LBMAレスポンシブル・ゴールドガイダンスに基づく第三者機関による監査・認証取得し、2014年より毎年更新しています。

LBMA
The London Good Delivery List of Acceptable Refiners
RESPONSIBLE GOLD CERTIFICATE
Tanaka Kikinzoku Kogyo K.K.
Chiyoda-ku
13th July 2017 for the period 1st Apr 2016 - 31st Mar 2017
London Bullion Market Association

LBMA レスポンシブル・ゴールド認証

「責任ある鉱物管理方針」「金に係る責任ある鉱物管理方針」:
http://www.tanaka.co.jp/sourcing_policy/

地球環境を守る

美しい地球を未来へ継承することは、国際社会共通の課題であり、大きな挑戦でもあります。
田中貴金属グループは、事業活動による環境への負荷を最小化するために、
あらゆる可能性を追求しています。

環境マネジメントシステム

国内全生産拠点で環境マネジメントに関する「ISO 14001」の認証を取得し、PDCAサイクルを回して、継続的な環境保全活動を実施しています。特に、CO_2排出量削減(地球温暖化の防止)、産業廃棄物排出量削減(循環型社会の形成)、環境異常撲滅活動(汚染の予防)については、グループ全体の目標を定め積極的に取り組んでいます。

環境保全活動を着実かつ円滑に推進するために、各事業場長で構成される中央環境委員会を最上位としたグループ組織体制を構築しています。また、SHE※推進室長会議、環境管理者で構成される環境専門部会を定期的に開催し、情報共有及び積極的な意見交換を重ねています。

※SHEは、「安全、衛生、環境」の略です。

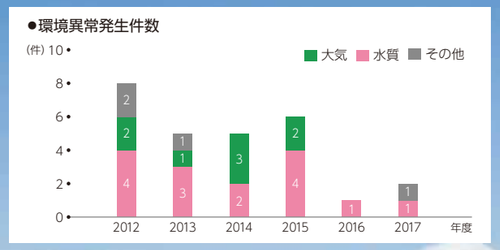
●環境保全推進体制

環境異常撲滅活動

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等を未然に防止するため、法規制よりもさらに厳しい社内管理値を設定しています。特に、大気及び水質等については、原則として法規制値等の2分の1を社内管理値としています。

異常発生時には迅速に対応するとともに、原因の把握と再発防止に努めています。社内では「速報」による情報伝達を、関係行政当局へは「通報・届出基準」に基づく報告を行っています。2017年度は、環境異常が2件発生しましたが、即時、対策を実施し再発防止に努めています。

●環境異常発生件数



CO_2排出量削減の取り組み

地球温暖化防止に貢献するため、生産活動におけるCO_2排出量の削減に取り組んでいます。

2017年度のCO_2排出量は、建屋増設や生産の拡大により2016年度から2%の増加となりました。近年は事業活動が活発なためCO_2排出量は微増傾向にありますが、過去10年間の推移では約3割削減しています。特に、2011年3月に発生した東日本大震災後に全社を挙げて省エネ活動に注力した結果、2011年度以降のエネルギー使用量を大幅に削減することができました。

今後も様々な機器の高効率化や運用改善等の省エネ活動を強化し、さらなるCO_2排出量削減を目指します。

●CO_2排出量

電力によるCO_2排出量は、すべての年度で東京電力の2016年度CO_2排出係数0.474(kg-CO_2/kWh)を使用しています。

◎太陽光発電の導入

2018年3月に田中貴金属工業(株)伊勢原工場並びに筑波事業所で太陽光発電を導入しました。工場全体のCO_2排出量に対して、それぞれ4%の排出削減効果を見込んでいます。

これまでに、上記のほか田中貴金属工業(株)湘南工場、田中電子工業(株)佐賀本社工場で太陽光発電を導入済みです。今後他の工場でも計画的に導入を進めます。

工場名	導入年度	CO_2排出削減効果
田中電子工業(株)佐賀本社工場	2016年度	4%
田中貴金属工業(株)湘南工場	2016年度	1%
田中貴金属工業(株)伊勢原工場	2017年度	4%
田中貴金属工業(株)筑波事業所	2017年度	4%

伊勢原工場

筑波事業所

◎ベスト省エネテーマ発掘賞

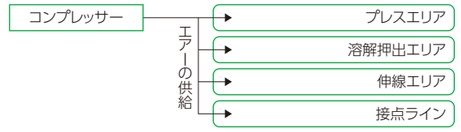
省エネルギー月間の活動として、2018年2月に全社員を対象とした「ベスト省エネテーマ発掘賞」を実施しました。「今までにない発想の省エネアイテム」、「ちょっとした工夫で省エネが図れるアイディア」等295件の応募があり61件を表彰しました。

表彰案件については各事業場で省エネ指策として積極的に実施するとともに、全応募テーマについても環境専門部会や社内データベースを通じて情報共有しグループ全体で横展開を図ります。

「ベスト省エネテーマ発掘賞」受賞事例

●コンプレッサーの運用改善(富岡工場)

【改善前】各工程で作業時間が異なるためコンプレッサーを停止することができなかった。



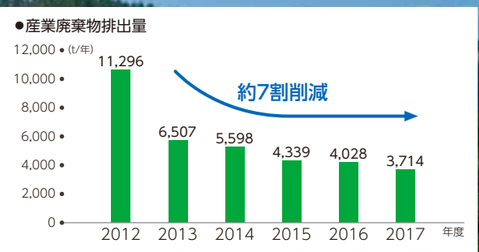
【改善後】各工程に遠隔操作盤を設置しコンプレッサーエアーの使用終了後に停止ボタンを押すことにした。全工程で停止ボタンが押された時点でコンプレッサーが停止し、余分な電力を削減することができた。

【効果】 電力量▲47千KWh/年 コスト▲847千円/年

産業廃棄物排出量削減の取り組み

田中貴金属グループは、貴金属の溶解や精製、及び貴金属廃液からの貴金属の回収の際に、酸・アルカリ性廃液が多く発生します。分別を徹底し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進しています。2017年度は、廃棄物量を前年度より約300トン(7.8%)削減することができました。

●産業廃棄物排出量



地域・社会への貢献

田中貴金属グループは、事業活動を通じてご縁が生まれる地域や国がより健やかで豊かになるように、
自らができる貢献に努めています。会社としての支援、社員によるボランティアの両面から、
継続性を大切にする活動を各地で展開しています。

田中貴金属記念財団

貴金属に関わる研究助成金

本助成金制度は、「貴金属が拓く新しい世界」への様々なチャレンジを支援するため、貴金属が貢献できる新しい技術等の研究をあらゆる分野から募集しています。19回目となる今回は総計167件の応募のうち23件の研究に対し、総額1,520万円の研究助成金を授与しました。

「ヒトiPS細胞から作製した人工神経組織を操作するためのプラチナ電極デバイスの開発」

ゴールド賞 200万円　東京大学 准教授 池内 与志穂 様

「疾患を治療する哺乳動物内での『生体内貴金属触媒反応』」

ゴールド賞 200万円　理化学研究所 主任研究員 田中 克典 様

愛の絆　桜の植樹135

東日本大震災以降、東北復興支援ボランティアとして様々な形で活動を行ってきました。2013年度より開始した「記憶の継承」をテーマとする支援活動では「避難の目安となる津波最高到達地点に桜並木を作る」からスタートし、現在では植樹した桜のメンテナンスと大津波の伝承のため、社員の募金による支援を行っています。創立135年を迎える2020年までに135本の植樹を目標としており、これまでに127本の植樹を行いました。

TANAKA NOW

2017年4月より「愛の絆　桜の植樹135」活動の窓口をCSR推進部から田中貴金属記念財団へ移管し、はじめて桜の植樹に参加しました。今までは、募金活動のボランティアとして参加していましたが参加する側とは違い、運営する側の大変な苦労がとても良くわかりました。これまでの6年間の活動で、田中貴金属グループ内に「愛の絆　桜の植樹135」が定着してきたため、今年もグループ全社から多くの募金が集まりました。これからも積み重ねてきた活動を大切にし、より良い活動に向けて皆様とともに、被災地の復興へ貢献できるよう努めていきます。

田中貴金属記念財団　事務局
(TANAKAホールディングス株式会社 財務経理部 部長付)
赤井 貴子

障がい者スポーツ支援

田中貴金属は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナー契約をはじめ、2017年4月からNPO法人日本ブラインドサッカー協会、ブラインドサッカー女子日本代表への協賛もはじめ、さらなる障がい者スポーツへの支援・応援を実施しています。

2017年度は日本障がい者スポーツ協会主催のジャパンパラ競技大会やブラインドサッカー国内・国際大会への応援観戦・ボランティア活動への参加だけでなく、社内での障がい者スポーツ推進の施策として「ボッチャ」の体験会を実施しました。社内運動会(2017年10月)や各事業場にてその体験会を実施し、延べ750名以上の社員が参加しました。

2017年10月社内運動会でのボッチャ体験会

「平成29年度東京都スポーツ推進モデル企業」に3年連続選定されました。

「高専ロボコン」協賛

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)は、高専の学生たちが既成概念にとらわれず「自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことでモノ造りの面白さを体験するイベントです。全国57校62キャンパスの高専生が8地区での予選を戦い、選ばれた最大26チームが東京での全国大会に進みます。

田中貴金属グループは、若き技術者のモノ造りを応援するために、2012年から「高専ロボコン」に協賛しており、全国大会では田苗社長から特別賞を贈呈しています。「高専ロボコン」を、田中貴金属グループは支援し続けます。

主な活動

【寄付・募金活動】

社内フリーマーケットを開催し、売上金でリカンベントバイク2台を地域活動支援センターへ寄贈しました。
事業場:田中電子工業(株)佐賀本社工場　参加人数:125名
開催時期:2017年8月～12月

社内フリーマーケット、会社の中古パソコン、雑貨の販売を通じて、小児癌治療基金に寄付しました。
事業場:田中エレクトロニクス・シンガポールPte.Ltd.　参加人数:200名
開催時期:2017年7月

【スポーツ振興活動】

児童養護施設『聖華園』では、子供達の県大会へ向けた練習をサポートしました。(野球:男子) (バレー:女子)
事業場:田中電子工業(株)佐賀本社工場　参加人数:39名
開催時期:2017年5月～8月

「東京マラソン2018」において、同大会マラソン男女上位3名と、2016大会から国際化された車いすマラソン男女の上位3名に進呈される金・銀・銅メダルを男女各2個ずつ、合計12個提供しました。
開催時期:2018年2月

【人材育成・文化芸術の発展】

工場勤務の社員とその家族を対象とした家族職場見学会を実施しました。見学会は2012年より実施し、今年で6回目となります。
事業場:湘南工場　参加人数:子供15名、保護者9名 計24名
開催時期:2017年8月

理工系人材育成のため、職場体験・見学会「夏休み理系職場ツアーズ　in TANAKA」を実施しました。見学会は2015年より実施し、今年で3回目となります。
事業場:湘南工場　参加人数:学生20名、保護者8名 計28名
開催時期:2017年8月

【地域清掃活動】

各事業場では、工場及び周辺等の清掃活動を定期的に行っています。
事業場:岩手工場、富岡工場、市川工場、伊勢原工場、平塚工場、湘南工場、筑波事業所、田中電子工業(株)佐賀本社工場、日本エレクトロプレイティング・エンジニヤース(株)平塚事業所、田中貴金属ジュエリー(株)銀座本店、田中電子(杭州)有限公司

寄付・募金活動
(田中エレクトロニクス・シンガポールPte.Ltd.)

スポーツ振興活動
東京マラソン2018 金、銀、銅メダル

人材育成・文化芸術の発展
家族職場見学会(湘南工場)

地域清掃活動
(伊勢原工場)

その他の活動はホームページから https://www.tanaka.co.jp/about/csr/communication.html

誠実で自由闊達な企業風土

より安全な職場環境づくり

労働慣行

安全で、安心して働ける職場づくりは、企業にとって基本的な、かつ奥深い課題です。
田中貴金属グループは、お互いに協力できる関係づくりを大切にしながら、
社員の安全と健康の確保に取り組んでいます。

安全活動

2017年度は、全生産現場での安全総点検として、非定常作業の手順の見直し及び挟まれ・巻き込まれリスクを低減するための改善を実施し、実施状況の確認を行いました。改善作業を全社員一丸となって進めた結果、安全意識の向上も図られ、2017年度の生産現場での災害発生件数は過去最低に抑えることができました。しかしながら、通勤途上や間接系職場での転倒災害が多く発生しました。このため、転倒災害を防ぐためのDVD視聴や安全資料による教育を継続的に実施しています。また、安全管理者による自他事業場の相互巡視活動や中災防(中央労働災害防止協会)の安全管理士による安全診断も前年同様実施しました。

交通事故はそのほとんどが通勤時及びプライベートでの事故である状況は変わらず、2017年度は前年とほぼ同数の54件となりました。被害事故が半数以上を占める状況は変わっていません。

労働災害と交通事故の防止には、いずれも一人ひとりの安全感度、安全意識の向上が重要であるとの考えに立ち、安全教育の充実等の安全管理活動を推進していきます。

GOGO計画2020　中央安全方針　“安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する”

あるべき姿
安全意識が向上し、自分の安全は自分で確保することができる

ありたい姿
相互に協力し、安全・安心・明るい職場を維持している

2015年度　～　2017年度　　2018年度　～　2020年度

中期経営計画「GOGO計画2020」に基づいて設定された、2017年度の「あるべき姿」を経過し、2020年度の「ありたい姿」を目指し、中央安全方針「安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する」のもと、安全管理活動を推進します。

衛生活動

社員の心身の健康は、生産性の向上につながります。当グループは、社員が日頃から自身の健康意識を高めてもらうよう年1回「健康チャレンジ」を実施しています。これは、健康の維持・増進に関係する17のチャレンジ項目の中から自由に選択した項目をチャレンジ期間(約2ヶ月間)に実行することで、それを習慣づけるためのキッカケをつくるという企画です。この機会を疾病等の予防に繋げてもらいたいと考えています。

また、2016年から実施しているストレスチェックはメンタルヘルス対策として、受検者数が増加するようストレスチェックの目的や意義の浸透を社員に図っています。

TOPICS

皇居ウォーキング

「する」、「みる」、「支える」等のスポーツ活動の奨励や支援に関する取り組みを進めています。「する」スポーツの推進の一環として、社員の健康促進を目的に「皇居ウォーキング」を10月に行いました。当日は、社員とその家族の計23名が参加して、約5kmの皇居ウォーキングコースを約1時間かけて歩きました。

参加者からは「子どもを連れて参加し、家族イベントとして楽しめた」「身体をもっと動かしたいという気持ちになった」等の感想が寄せられました。

TANAKA NOW

小売業である田中貴金属ジュエリー(株)は、社員と同様にお客様の安全確保を担っています。お客様が楽しく安全にお買い物ができる環境を構築するためには、まず社員の安全に対する意識向上が不可欠です。そのために、ヒヤリハット提案を活発化するための啓発活動、KYT(危険予知訓練)活動等を積極的に行っています。また昨年度多発した転倒災害の防止対策として、原則としてエレベーターを使用するよう通達したほか、臨時に全社員への安全教育を実施しました。今後も様々な活動を通じて、社員一人ひとりの安全意識向上に努めていきます。

田中貴金属ジュエリー株式会社 安全管理者　太田 貴人

一人ひとりの活躍

多様性を増す社員の一人ひとりが輝ける職場づくりは、田中貴金属グループの将来にとって欠かせません。様々な多様性の切り口に目を向けながら、新しいやり方を意欲的に取り入れています。

働き方改革

田中貴金属グループでは、社員がいきいきと働ける職場環境づくりを目指し、働き方改革に取り組んでいます。

様々な施策を通して有給休暇取得日数の底上げを図ると同時に、会社側から積極的な情報発信を行うことにより、仕事と育児の両立及び仕事と介護の両立ができる雰囲気づくりに取り組んでいます。

今後も柔軟で働きやすい職場環境の整備に力を入れていきます。

●2017年度(国内)

社員数男性	1,942名	(1,924名)
社員数女性	825名	(831名)
女性管理職	69名	(74名)
妊娠時短時間勤務	1名	(1名)
育児休業	44名	(66名)
育児短時間勤務	70名	(61名)
障がい者雇用率	1.86%	(1.80%)
平均年齢　男性	42.3歳	(42.4歳)
平均年齢　女性	42.3歳	(41.6歳)
平均勤続年数　男性	13.6年	
平均勤続年数　女性	11.2年	

※( )内は前年度

仕事と介護の両立支援

トモニン

当グループは仕事と介護を両立できる職場環境の整備促進に取り組んでいます。

人材育成

田中貴金属グループでは、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」をモットーに、体系的・計画的な人材育成を行っています。なお、「社員は財産である」との考えのもと、社内では「人財」と表記しています。2017年度も教育プログラムに沿って、「新入社員導入研修」から「マネジメント研修」まで、様々な研修を多くの社員が受講しています。特に2016年にリニューアルした「管理者研修」では、多くの役職者が受講による様々な気づきをもとに研修結果を自部署のマネジメントに役立てています。

受講者の声を聞きながら、毎年教育プログラムを改善・更新していきます。

エンゲージメントサーベイ

田中貴金属グループ(TKG)では、ESの向上が企業の成長の原動力との認識から3年に一度エンゲージメント※・サーベイ(社員意識調査)を海外ナショナルスタッフを含めた全社員に実施しています。中期経営計画である"GO GO計画2020"の3年2期の初年度の施策に調査結果が反映できるように、調査のタイミングを設定しています。直近では、2017年9月に調査を実施し、調査結果を同年11月のTKG四半期幹部会にて公表し、2018年から始まる3ヵ年計画の施策に取り入れて展開していきます。

※「エンゲージメント」とは、働く社員の一人ひとりが常に主役である気持ちと自分の仕事に対する誇りと情熱を持ち、期待以上の成果を出すまで諦めずに頑張る気持ちを意味します。

CSR通信活用ブック

CSR活動の社内コミュニケーションツールとして、2012年4月2日より毎日CSR通信を発行してきました。発行開始から4年を経た2016年6月17日に1000号を迎えたのを期に、約230件の記事を抜粋・再編集して「CSR通信活用ブック」を作製しました。CSR通信活用ブックは冊子版を全事業場に配付するとともに、CSRに関する教育資料やプレゼン資料として活用しやすいよう電子データでも共有しており、社員がいつでも自由に閲覧・利用することができます。今後も毎日のCSR通信発行に加えて、定期的にCSR通信活用ブックを更新することで社内コミュニケーションの充実を図ります。

CSR通信活用ブック

TANAKA NOW

モノ造り大学は2010年に設立され、新入社員、若手中堅社員、通年採用社員、設備保全員を対象に様々な形で人材育成のための教育・訓練を実施してきました。中でも新入社員研修は安全・衛生・環境の教育を最優先とし、さらに貴金属の基礎とモノ造りの基礎に関する教育・訓練を行っています。講師は現場で活躍し、実践での経験豊富な先輩方にお願いしています。今後も、配属先にて即戦力になれる人材育成を目指した教育・訓練に取り組んでいきます。

田中貴金属工業株式会社
事業管理部 人材育成S チーフマネージャー
山崎 弘

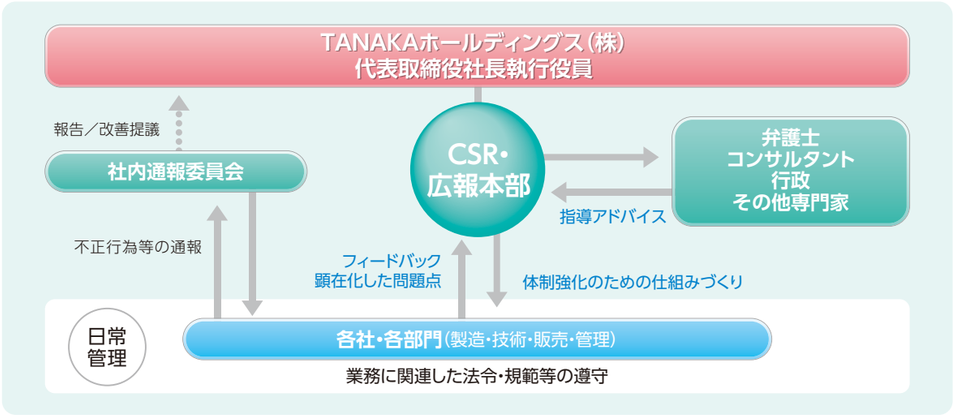
コンプライアンス、リスクマネジメント コーポレート・ガバナンス

法を遵守するだけでなく、社会倫理に照らして正しい事業活動を
グローバルに展開するための取り組みを、グループ全体で継続的に推進しています。

コンプライアンス推進体制

法令を遵守することはもとより、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践しています。コンプライアンスに関する問題や外部からの情報はCSR・広報本部に集約され、弁護士、コンサルタント及び社外の専門家からの指導・アドバイスを受けながら、是正措置を行い、再発防止策を田中貴金属グループ全体に展開しています。

●コンプライアンス推進体制図

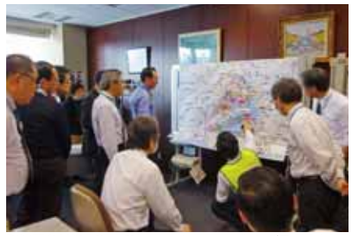


リスクマネジメント活動

企業活動において直面する様々なリスクに対応するために、定期的にリスクアセスメントを行いリスクの低減に取り組んでいます。半年に1回開催するリスクマネジメント委員会では、グループ全体のリスク対応状況を総括しています。

事業継続計画(BCP)

2018年2月に首都直下型地震発生を想定したBCP緊急対策本部訓練を実施しました。今年度は夜間・休日(就業時間外)に大地震が発生した場合の対応を重点に、社長はじめ各経営幹部が対応策や改善策について検討を行いました。訓練で抽出された問題点・課題は計画的に改善・実行しています。

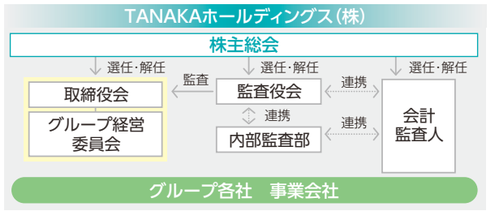


BCP緊急対策本部訓練(TANAKAホールディングス(株)本社)

コーポレート・ガバナンスと内部統制

田中貴金属グループは、健全で透明性の高い経営を実現するために、経営に対する監視の仕組みを充実させ、常に効率的で競争力のある企業集団となることを目指しています。

またすべてのステークホルダーの皆様の権利と利益を尊重し適法かつ妥当な業務執行、適正かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、内部統制基本方針を定めています。この体制と基本方針に基づき経営目的の達成に向けた内部統制システムの中で取締役会・グループ経営委員会・監査役会・内部監査部が確実にそれぞれの役割を果たしています。



●取締役会(取締役)

変化の激しい経営環境に効率的に対応すること、及び経営責任を明確にするためグループ各社の取締役の任期は1年としています。TANAKAホールディングス(株)の取締役会は、自らはもとよりグループ全体の業務執行に関する基本方針を決定します。また各社取締役会は、重要事項の決定のほか業務執行状況につき報告を受けることにより、取締役の業務執行を監督します。

●グループ経営委員会

グループ全体に関わる重要事項やグループ各社間の調整が必要な事項に関し、取締役会における審議・運営を円滑に行うために、グループ経営委員会にて各事項の審議・裁定・調整・承認を行います。またグループ各社の社長が出席することから各社の活動報告並びに情報共有を目的の一つとします。

●監査役会(監査役)

TANAKAホールディングス(株)は、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行いまたは決定するため、監査役全員による監査役会を設置しています。監査役は主に取締役の業務執行を監視する役割を担いますが、経営の客観性を確保するため監査役のうち一名以上は社外から選任されます。

●内部監査部

内部監査部は、公正かつ独立した立場からグループ各社の業務の効率性や適正性を評価・検証し、経営層に提言する役割と責任を負っています。また監査役会や会計監査人と定期的に意見交換を行う等相互連携を確保しています。

社内通報制度

コンプライアンス強化に関する取り組みのひとつとして、また、法令違反や不正行為等の早期発見と是正を図るために社内通報制度を設けています。「社内通報委員会」に入った通報は、内容を公正に検討した上で、必要な場合には調査し、法令違反や不正行為等の事実を確認した場合には、当事者や関連部署に是正措置を講じるように指示します。なお、通報者は不利益な取扱いを受けないよう厳格に保護されます。

個人情報管理の推進

田中貴金属グループでは、個人情報を「個人のお客様の個人情報」「法人のお客様の個人情報」「社員等の個人情報」の3つのカテゴリに分類して管理を行い、特に、「個人のお客様の個人情報管理」では、ISO27001の認証を取得し適切な情報管理を推進しています。

ハラスメント研修

パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント等の人権侵害防止のため、2014年度から「ハラスメント研修」を実施しています。2017年度は一般社員向けの研修を国内全拠点で行いました。(合計1,657名が受講)。この研修ではLGBT※の方への理解も深めました。

※レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー

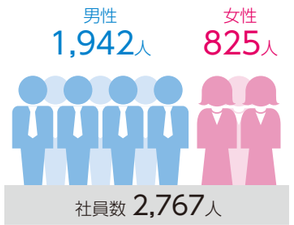
TANAKA NOW

輸出貿易管理室は、TANAKAの製品や技術が国際テロ犯罪や核兵器・生物化学兵器等に転用され平和が脅かされることを防ぐための安全保障貿易管理、及び航空輸送の安全を確保しつつスムーズな輸出通関を実現するための航空保安・AEO認証制度を管理する専門部署として活動しています。関税法・外為法等の国内法令遵守に加え、米国政府による海外企業への二次制裁の影響等も注視しながら、TANAKAの信頼を下支えする活動に精一杯努めていきます。

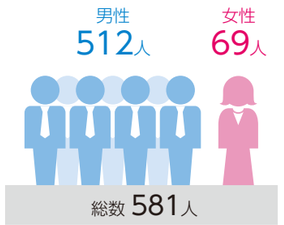
田中貴金属工業株式会社
管理部 輸出貿易管理室 室長
米川 隆史

CSRパフォーマンス

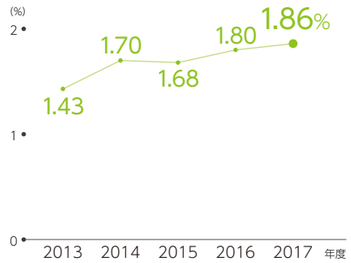
【 役員・従業員数(国内) 】
2018年3月末現在



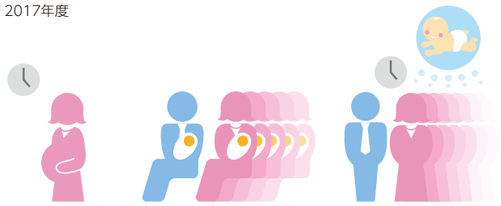
【 マネージャー以上管理職人数 】
2018年3月末現在



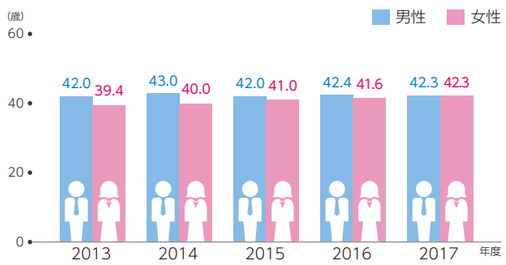
【 障がい者雇用率 】



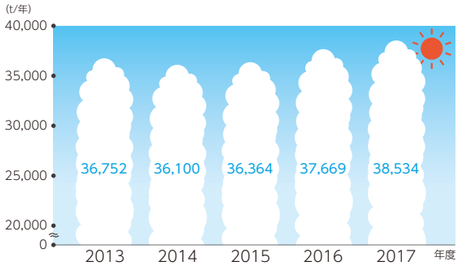
【 育児休暇等制度の利用人数(国内) 】
2017年度



【 平均年齢 】

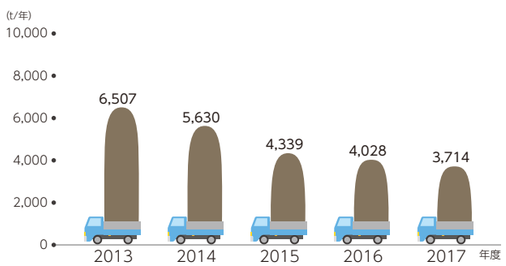


【 CO_2排出量 】

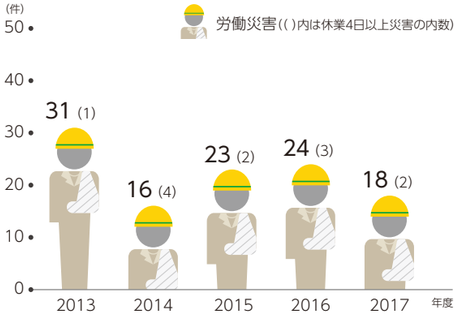


電力によるCO_2排出量は東京電力の2016年度CO_2排出係数0.474(kg-CO_2/kWh)を毎期使用しています。

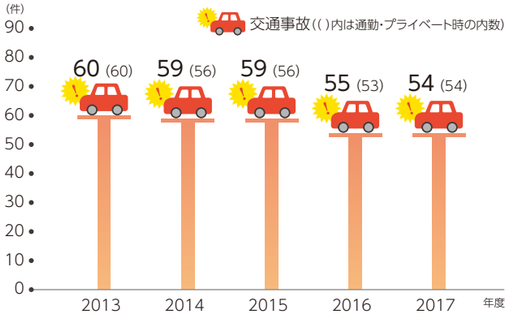
【 産業廃棄物排出量 】



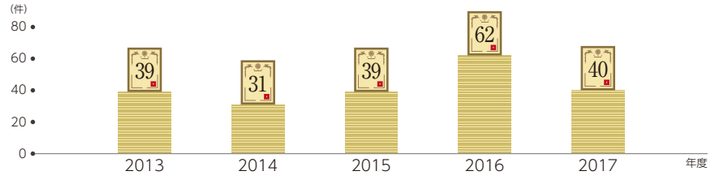
【 労働災害発生件数 】



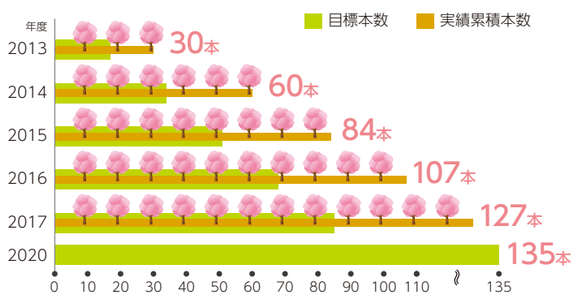
【 交通事故発生件数 】



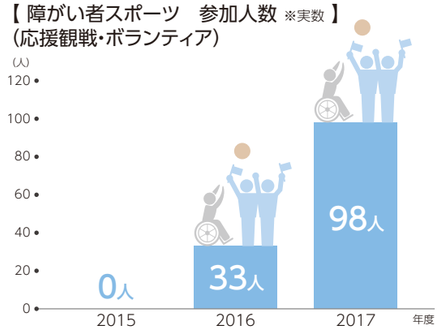
【 新規特許登録件数(国内) 】



【 東北復興支援ボランティア 桜の植樹本数(累計) 】



【 障がい者スポーツ　参加人数 ※実数 】
(応援観戦・ボランティア)



第三者保証

SUSA
Sustainability Accounting Co.,Ltd.

独立第三者の保証報告書

2018年7月2日

TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役社長執行役員　田苗 明　殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役　福島 隆史

1.目的
当社は、TANAKAホールディングス株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、「CSR報告書2018」22-23頁掲載の2017年度CSRパフォーマンスの各種指標（以下、「各種指標」という）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、各種指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。各種指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2.保証手続
当社は、国際保証業務基準ISAE3000に準拠して本保証業務を実施した。当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。
・算定方針について担当者への質問
・算定方針の検討
・算定方針に従って各種指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3.結論
当社が実施した保証手続の結果、各種指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上

第三者所感

【略　歴】
横浜国立大学経済学部卒業、日本能率協会を経て淑徳大学国際コミュニケーション学部・経営学部教授。2014年退職しCCI研究所設立。専門は環境／CSRコミュニケーション、広報マネジメント。主要著書に『戦略思考の広報マネジメント』『三方よしに学ぶ人に好かれる会社』『環境コミュニケーション』『人にやさしい会社ー安全・安心、絆の経営』『広報・PR概論』『CC戦略の理論と実践ー環境・CSR・共生』『会社員のためのCSR経営入門』等多数。

清水 正道

筑波学院大学客員教授、CCI研究所代表。日本広報学会 経営コミュニケーション研究チームリーダー、日本パブリックリレーションズ協会会員、環境カウンセラー

私は6年にわたり、TANAKAホールディングス株式会社の主要工場を見学し、スタッフの方々と意見交換を続けてきました。その上で、本書の完成直前の原稿を拝見し、今年とくに例年以上の強い印象を抱きました。2017年度版と比べて社員の声が増え、「人財」育成と現代経営「コーポレート・ガバナンス」体制によって「誠実な企業風土」づくりが進められていることです。

企業と社会がグローバル化する意味

また報告書全編に流れる「現実を直視する」姿勢と「未来に向けた」視線にも注目しました。「トップメッセージ」から「TANAKAが創出する価値」にわたる記事においても、また安全・品質・環境保全や地域社会への貢献活動の記事にも現れていると感じました。市川工場の自動車用排ガス部品リサイクル事業は、世界地図を見ながら理解する必要に迫られました。それは、当社の社会的影響力が「現実」にも「未来」にも、グローバルに開かれていることを象徴するものではないかと思ったものです。

私は、本誌原稿に登場するリスク、事業、提供価値、創出価値、地球環境、社会貢献、企業風土等多数の言葉に「グローバル」という文字をかぶせて読み込みました。もちろん一人の人間には限られた知識や経験しかありません。そのことを自覚しつつ、非常に幅広い事業を展開している当社の個別活動を、理性と情緒の両面で捉えてみようと考えました。

最近、相次いで企業やスポーツ団体の不祥事が取り上げられています。その場にいた人が「何か変だ」と感じ、それを他の人々と話し合い投稿することによって、より多くの人々が「社会秩序が壊れる」という危機認識を共有する。そしてその輪が広がっていくことによって大きな社会問題となってしまう現象です。たとえ身近な、ちょっとした安全や品質、環境の問題であっても、今日のグローバル化した社会では、それが社会的問題として認識されて重大な企業リスクとして現れることが多くの報告によって明らかです。当社は「モノ造り大学」をはじめ人材育成に熱心に取り組んでいますので、さらに気づきを深めるような教育や職場のコミュニケーションを期待しています。

私たちの未来はすでに現実に

気になる現実もあります。CO_2排出量や交通事故発生件数の数値です。10年間でみれば減少していますが、近代文明の産物である自動車のあり方をめぐる情報が連日のように新聞・雑誌を賑わせている状況を考えると、何らかの問題をきっかけとして、未来から現実が指弾されることは十分考えられます。技術的にも難しい課題ですが、これまで以上の削減努力を希望したいと思います。

最近の報道で気になったことは、大企業経営者たちが製品スペックの不祥事を顧みて「社内コミュニケーションが不足していた」「人は信用しても、人の行動は信用しない」、あるいは「危機対応において大切なのは、すべてのステークホルダーを守ることだ」等と語っていることです。すでに未来が現実となりつつあるということではないでしょうか。

今日の気づきを明日の工夫に

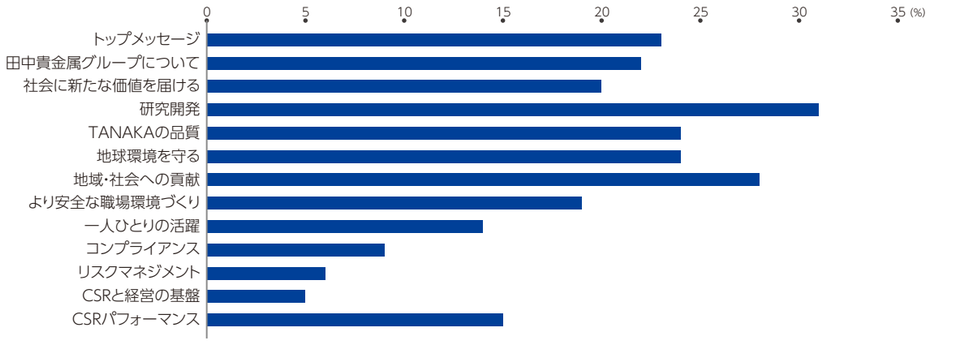
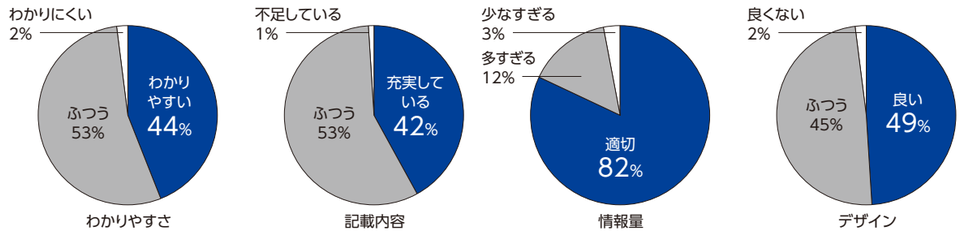
今日、デジタル革命の次に「マテリアル革命」が到来するとの認識が提示されています。当社の未来へ向けた可能性が一段と拡大しつつある中で、本誌冒頭で田苗社長が「グローバル企業に成長・発展させる」とともに、「よりグローバルにCSR活動を推進する」と語っていることに、非常に心強い思いがします。それは一人ひとりの社員の皆さまとともに、さらに歩を進める決意を示すメッセージです。本誌を手がかりに、ぜひ今日の気づきを明日の工夫につなげてくださることを期待します。

ISO26000・SDGs対照表

ISO26000の中核主題	TANAKAの取り組み	ページ	SDGs 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
組織統治	リスクマネジメント活動／事業継続計画(BCP)	P20													○				
	コーポレート・ガバナンスと内部統制／取締役会(取締役)／グループ経営委員会	P21																	
	監査役会(監査役)／内部監査部	P21																	
人権	責任ある鉱物調達への取り組み	P11								○								○	
	働き方改革	P18					○												
	エンゲージメントサーベイ	P19																	
	コンプライアンス推進体制	P20										○						○	
	社内通報制度	P21																	
	ハラスメント研修	P21																○	
労働慣行	安全活動／衛生活動／皇居ウォーキング	P17																	
	人材育成	P18				○													
	CSR通信活用ブック	P19																	
環境	貴金属はすべて循環させる／地金はお金 サーキュラーエコノミーの実現に向けて／RE:TANAKAリサイクル	P08						○						○					
	環境マネジメントシステム	P12						○	○				○	○	○				
	環境異常撲滅活動	P12						○					○	○					
	CO_2排出量削減の取り組み／太陽光発電の導入／ベスト省エネテーマ発掘賞	P13							○				○		○				
	産業廃棄物排出量削減の取り組み	P13						○					○	○					
環境 消費者課題	気候変動の緩和と水素利用への期待	P06							○		○				○				
	水電解用電極触媒の開発／燃料電池の可能性とFC触媒開発センター／TANAKAが提供する燃料電池ソリューション	P07							○		○				○				
	貴金属技術の医療分野への活用	P09			○														
公正な事業慣行	知的財産権の創出と保護	P09																	
	CSR評価への対応	P11					○			○		○						○	
消費者課題	QMSによる品質管理活動／公認審査会社(グッド・デリバリー・レフリー)	P10																	
	顧客からの評価	P11																	
	個人情報管理の推進	P21																○	
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	貴金属に関わる研究助成金	P14				○													
	愛の絆 桜の植樹135	P14															○		
	障がい者スポーツ支援	P15										○							
	「高専ロボコン」協賛／人材育成・文化芸術の発展	P15				○													
	寄付・募金活動／スポーツ振興活動／地域清掃活動	P15																	

「CSR報告書2017」アンケート結果

【 特に興味をもたれた記事は何ですか？】(複数回答可)　回答者数:2,114名



【 内容についてどのようにお感じになりましたか？】